

Rotary
District 2620

よいことのために
手を取りあおう

UNITE
FOR
GOOD

Rotary

2025-26 年度 RI メッセージ

国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツォ氏

Weekly Bulletin

藤枝南ロータリークラブ 会報



例会：毎週金曜日
会場：小杉苑 藤枝市青木 2-35-30
TEL：054-641-3321

事務局：藤枝商工会議所内
TEL：054-646-3919 FAX：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

2025-26 年度

会長：鈴木寿幸 副会長：桑原 茂 幹事：加藤智之 副幹事：杉浦 聡

例会 第 1632 回 通常例会/小杉苑

ソング：我らの生業、花 ソングリーダー：鈴木照寛君

会長挨拶

鈴木寿幸君



皆さんこんにちは、本日も藤枝南ロータリークラブの例会にご出席いただきありがとうございます。本日は、4月号の「ロータリーの友」にあるある相談室になるほどと思う記載がありましたので、紹介させていただきます。

ロータリーあるある相談室は、ロータリアンの「あるある」な相談に経験豊かなパストガバナーが、真剣に、時には、ユーモアを交えてお答えする記事です。

相談者は、兵庫県の68歳、相談内容は、うちのクラブには、入会50年を超える大先輩がいます。発言は多くないのですが、例会場にその方が入ってくるだけで、みんなが自然と姿勢を正す。そんなに緊張感を感じさせる人です。そういった器の大きさを感じさせる人は、今なかなかいませんが、なぜ、あのように空気を変える力があるのでしょうか？教えてくださいという相談でした。回答者は東京福生RCのパストガバナー、きっとその方は、ある分野で努力を重ね、その世界では一流といわれる域に達した人だと思います。しかし、一流になっても、その上には超一流が存在し、超

一流の上には超超一流、つまり世界一がいます。努力を重ねて一流になった人は知っています。

「上には上がいる。自分はまだまだ、もっと磨きたい。でもこれが自分の実力の限界だ。悔しいが限界だ。」この「悔しさ」とは、欲です。しかし、

「自分の才能と努力の限界」を「明らかに見極め」その欲をあきらめたのです。「諦める」とは「明らかに極める」ことだったのです。そして、「自分は神ではない、しょせん人間であること」に気づいたのです。きっとその人はそんな経験をお持ちなのでしょう。みんなが姿勢を正すのは、その経験によるものです」。ロータリアンのみなさんも、ロータリアンとして上には上がいる「悔しさ」を持ち、努力を重ね、限界を知り、そして「諦める」。

これに挑戦してみたいかですか。その方は、間違いなく謙虚な方だと思います。謙虚とは、「極めて高い次元での挫折」の経験からにじみ出てくるものなのです。僕なんか、せいぜい努力したのはハーモニカだけ。しかも全く極めていないので、まだまだ全然だめですが、でも、やっただけましだと慰めています。(最後の一文は謙虚ぶった物言いですが、そもそも、それを書くこと自体が謙虚ではないのです。本当に謙虚な人は、自分を謙虚だなどとは言わず、謙虚なつもりもしません、謙虚そうな人にだまされないように気を付けてください)との回答でした。私も尊敬するロータリーの大先輩のようになれるようクラブの活動には積極的に参加し、クラブの仲間との親睦を深めたいと感じましたので、本日もご紹介させていただきました。最後に本日の例会が、ご出席の皆様の新発見や気づきの例会になることを願っております。本日もどうぞよろしくお願いたします。

先日、NHK の新日本風土記で奥大井の再放送があり、初回放送の 1970 年代初期と 2018 年台当時の映像で編集されていました。その当時を知る人たちにとっては大変懐かしかったようで、父の同級生たちはこの番組放送時には同級会を開き、誰それが出ていたとかで大変盛り上がっていました。

昔の山間部は人流が少なく、ご一統一族で集落があり、苗字を聞けば居住地区がわかるくらいでした。小さい頃に親戚周りをした時には、出先で名前を聞かれ、親戚の誰それに似ているとかでかなり捕まっていた記憶があります。奥大井の名字で皆様にも馴染みのある姓といえば、井林、鈴木、諸田でしょうか。あと羽田空港の羽田と書いて「はた」という姓もあります。

保育園に入園する頃には父の勤務地のため、新金谷へ引っ越しました。この場所は遊び場が多くとても楽しい場所でした。新金谷駅にはバスターミナル、鉄道車庫、バス整備工場がありました。最初は三輪車でしたが、足漕ぎ四輪車が来てからは、家から脱走するかのようにマリオカートさながらのスピードで冒険に出かけていました。バスターミナルではサーキット場のように走ってはバスを止め、時にはバスの先導車、整備工場では整備中のバスの中で遊んだり最高の遊び場でした。電車はこわいと感じていて改札を通ることはしませんでした。木造社屋の中には入ったりしました。大分迷惑をかけたはずですが、不思議と怒られた記憶はありません。後日談ですが、静岡に帰ってきて関係先にあいさつ回りをしたときには、当時のことを覚えているバス運行関係者やバスガイドさんがいて、ケガをしなかったのが不思議なぐらいと言われました。ちなみに私のおもりにしてくれたバスガイドさんは現在も現役です。会員企業様のご旅行で同行した機会もあるはず。あと隣には女子寮があり、今では珍しいゲート式のコーラ販売機がありました。瓶を取るにはコツが必要でしたが、取り出すことが楽しく、ガイドさん達がよく私にお願いしてくれました。

寮前には寮住まいの社員用に売店がありました。この店はとても不思議でお金を払わなくてもお菓子を持っていくことができました。もちろん無料ではなく、そのあとに店員さんが家に集金に来て母が払っていたそうです。この魔法のシステムは妹にも受け継がれ、両手いっぱいのお菓子を持って売店から出てくる現行犯写真が残っています。

日中は保育園のバスが迎えにきて保育園に行きます。テレビでピンポンパンを見てから出かけたと思うのですが、いつも番組最後に子供たちが木の下にあるおもちゃを取りに行くので、あの木はおもちゃのなる木だと思っていました。そのせいで私はポンキッキよりピンポンパンが好きでした。

保育園は牧之原台地の山側にあり周りは緑一杯の環境でした。当時は人数も多く運動会やイベント時の記念写真にはたくさんの園児が写っています。うれしかったのは写真撮影の時には怪獣やウルトラマンのようなヒーローたちが来てくれて一緒に撮影です。最近の保育園・幼稚園のイベントにはご当地キャラの着ぐるみを父兄が着て盛り上げるそうですが、あの当時はウルトラマンや仮面ライダーは大人気でした。

この話をほかの地域でもするのですが、同様の話は聞きません。藤枝でもヒーローたちが来たのでしょうか。給食のメニューは覚えていませんがおやつには八の字、肝油を楽しみに頂いたことは覚えています。園内にはエレクトーン教室もあり、遅く帰る園児たちと一緒に演奏した記憶があります。残念ながらお遊戯会は覚えていませんが、先生たちに大変かわいがってもらい良い記憶ばかりです。

小学校に進学すると、百科事典セット、世界の偉人セット、毎月地元の書店さんから配達される小学館シリーズ、学研の学習、化学と本を読む機会を多く与えられました。特に学研の学習、化学は付録が面白く、あの当時に赤色ダイオードやソーラーパネルがついてきたことを覚えています。昔から絵本を読むのも好きだったので、読書は苦になりませんでした。学期間の長期休み時には宿題に推薦図書を読んだの読書感想文がありました。

そして 2 年生の時感動の本との出会いがありました。今週掲載終了となったあの「ドラえもん」です。今までテレビで見っていたウルトラマンやマジンガー Z とは違うジャンルで、本で読むことが想像力をより広げた気がします。そして読書感想文をドラえもんで書いてしまいます。今なら先生に書き直しを指示されると思いますが、その時の担任は学校に掛け合ってくれました。結果としては感想文コンクールには選出されませんでした。担任にはいいほうに受け止めてくれたのでしよう。私がドラえもんを読んでまだ新しい学習机を壊してしまったことなどを書いたのですが、自分の机にもタイムマシンがあるかもと、まさしく

ドラえもん歌にあるあんなこといいな、できたらいいなを子供ながらに挑戦した結果でした。これ以降は常識のある子供に育っていくのですが、今回の皆様の反応次第では次回の談話の題材にしたいと思います。つたない話でしたがご清聴ありがとうございました。



大村和宏君

今回のお題は得意なこと、趣味。趣味と言えば音楽とスポーツでした。

まず音楽ですが、幼稚園の時にヤマハ音楽教室ではじめました。クラスに男の子は私だけで、その先生は二クラス持ってらっしゃったように思いますが、併せて男子2名。かなりストレスではありました。当時の私は、できないということに劣等感がなかった時代ですので、自分がへたくそなことにも気づかず、発表会で大太鼓を担当するのに、邪魔だったから・・・ということには思い至らない子供でした。

ともあれ、おかげさまで譜面も読め、小学校を卒業するころにはバンドの真似事も始めていました。一方 幼少時のスポーツは、部活が始まるまでは、毎日草野球です。まだ空地もありましたが、一つまた一つと空地は減り、小学校の中学年になるころは、約2キロ離れた、今の県立大学の校舎のある場所で、毎日場所取りの戦いでした。ですから、あの立派な校舎を見ると、多少ノスタルジックになります。ちなみに推しは、江夏・田淵の阪神タイガースで、テレビ放映はなく、ラジオ放送があるときはスコアブックをつけながら試合に思いをはせておりました。名古屋での敗戦の際は竹刀で桃の木を打ち据え、竹刀がたたき折れました。ところで、私は幼稚園から高校卒業までを旧清水市で過ごしました。杉山隆さんを輩出した清水ですから、藤枝にはかないませんが、それなりにサッカーも盛んだっただろうと思います。が、私の幼少期は草野球一辺倒でした。

さて、小学4年生にあがる際、朝の運動のメンバー募集がございました。種目等の説明はなく、ただ運動をしようという勧誘文書でした。

私、あっさりとはまって、応募・参加いたしました。ところが、ふたを開ければサッカー部創設でした。ちょうどこの年から堀田先生や綾部先生の謀略による清水サッカーの大進撃が始まったわけですから。ちなみに清水FC自体はその2年ほど前に生誕したようでございます。このころになりますと、私、変な自意識が芽生えておまして、負けるのが嫌だったんでしょ、夏休みまでにはレギュラーを勝ち取り、綾部先生ひきいる清水3羽ガラス、わたくしの高校の後輩になります。大榎克己さん、長谷川健太さん、堀池巧さん達がいたはずのチームとも対戦いたしました。彼ら三級下なので、1年生から始めていたんですね。試合はもちろんぼろ勝ちです。始めてたかが半年で、小学4年が小学1年に負けるはずはありません。ほぼいじめです。でも、かれらうまかったです。試合後にはメンバー達とひそひそ話をしておりました。話が飛びますが、私、その後高校3年で清水東のサッカー部Bに所属していました。正課のクラブ活動でしたが、我々、結構強いと自負しており、勝沢要先生に对外試合をお願いしたところ、キーパーを除いて半分の人数の一年生と試合をして、勝ったら話をつけてやると言われました。なんぼうまくても半数です。ここでもぼろ勝ちしました。弱い者いじめも得意だったようです。しかしながら、ここでも2級も下の子がこんなにうまいのかとびっくりしました。

思えばあの子たち、あの悔しさを糧に全国大会で優勝していたんですね。我々陰の立役者です。ちなみに对外試合は、私はフルバックでオフサイドトラップを頂きまくりました。気持ちよかったです。

サッカーといえば、小学4年の秋には清水FCのセレクションもうけました。合格ライン、トラップ150回くらいでしたでしょうか。80回ほどでついで、あっさりとは不合格でした。うかつにいたら人生変わっていたかもしれません。うちの代は6年生でヨーロッパ遠征も行っていますので、人生の転機ですね。

その後、5年生にあがる際、部活動入部が認められ、晴れてソフトボール部に入部。6年生にあがる際はキャプテンを囑望されていましたが、部活の顧問の先生が病に倒れ、廃部しました。

いまさらサッカー部に戻るの嫌だったので、新設のミニバスケット部に入部しました。県大会では、全国大会で優勝した学校には負けましたが、同大会で3位に入った学校には辛勝したような

その後、5年生にあがる際、部活動入部が認められ、晴れてソフトボール部に入部。6年生にあがる際はキャプテンを囑望されていましたが、部活の顧問の先生が病に倒れ、廃部しました。

いまさらサッカー部に戻るの嫌だったので、新設のミニバスケット部に入部しました。県大会では、全国大会で優勝した学校には負けましたが、同大会で3位に入った学校には辛勝したような

その後、5年生にあがる際、部活動入部が認められ、晴れてソフトボール部に入部。6年生にあがる際はキャプテンを囑望されていましたが、部活の顧問の先生が病に倒れ、廃部しました。

いまさらサッカー部に戻るの嫌だったので、新設のミニバスケット部に入部しました。県大会では、全国大会で優勝した学校には負けましたが、同大会で3位に入った学校には辛勝したような

記憶がございます。いずれにせよ私のチームはクラブ登録がされておらず、全国大会には行けませんでした。

中学にあがる際は家族の猛反対に会い、泣く泣く野球部を断念。バスケット部に入部しました。おもえば、幼少のみぎりから慣れ親しんだ野球との決別でした。これも人生の転機ですね。

さて、血気盛んな中学生、いろいろありましてバレー部に移籍。結局この年になるまでバレーを続けております。

さて、バンド活動ですが、中学高校は学園祭バンドをやっておりました。

地域のミニスタジオをお借りして、3回ほどライブも開催しました。

何がうまいわけでもなく、人が足りないパートを担当するというのはこのころからの習性です。ギター、ドラム、キーボード、ボーカルと、高校卒業までには一通りの楽器を担当いたしました。ちなみに、ベースは大学生の時にたまにライブハウスで客演していました。

さて、自分史をこんなに長いこと講義できる機会はレアですのでもう暫く、勘弁してください。

スポーツの方は、高校を卒業してからは、もっぱら所謂ナンパ路線でした。スキー、テニス、サーフィン 社会人になってもスキーとテニスは毎週どちらかはやっていました。ゴルフも始めました。

しかしながら、結婚、長女出生を機にすべて置いて、しばらくの間 仕事と子育てに専念いたしました。

さて私、子育てに専念いたしましたところ、体重が3桁を記録するに至りました。このままでは近々死ぬなどの予感がありましたので、娘たちを散々あそばせ、深い昼寝に誘い、自分はこっそりジムに行くというプランを立てました。もちろん最初は一緒にぐっすり寝ついておりましたが、首尾よく現在の一割減のラインまで体重を落としました。まあ現在はリバウンド中です。

ところで、もう一つのお題である「得意なこと」ですが、なかなか思いつきませんでした。こんな風につらつらと考えてみると、自分は「一所懸命」になるのが得意なのかなあと思うに至りました。

思えば、視野の外にあることには全く興味を示さないという欠点もございますが、目の前にあることにはやたらと一所懸命にやっておりました。したがって、女優さんの名前も女子プロゴルファーの

名前もほとんど知りません。

ところで、一生懸命ということば。一生かかっての一生を書くようですが、僕は一つ所、同じ場所の意味でのイッショ懸命だと思っていました。広辞林をみますと私の持っている版では「イッショ（一所）懸命」という項はなく「一生懸命」の項に一所懸命の転との記載がありました。自分割と古い人間のようなのです。

今は、子育ても落ち着き、あろうことか事業を引き継いでしまいましたので、今は多分、会社に一所懸命なのかなあとと思います。

もうちょっとミクロなことを申し上げれば、仕事を終え清水の実家に車で移動する際の40分は、音楽と高速安全運転に一所懸命です。忘れっぽいこともあって、仕事のもやもやもリセットできているような気がします。ですからお酒に頼ることはございません。

おちついたらロータリーも一所懸命にやるかとも思いますが、今はまだ参加型でお許しください。さて、まだ時間がありそうですので、頭を振り絞って思い返してみましたところ、趣味がもう一つありました。

読書が好きでした。

思えば幼稚園のころ、毎月配本される科学ブック、そして世界の童話シリーズはインドアでの最大の楽しみでした。

小学校にあがり図書館に出入りできるようになってからは、10分休みはひたすら読書。もちろん、20分休みはドッチボールに興じておりました。

少年探偵団シリーズ、ルパン、ホームズ、SF、これが転じてブルーバックスに至り、宇宙のからくりを悟るに至りました。その他司馬遼太郎さんなども大体読みましたから、大河ドラマは斜にみても大体ストーリーはわかります。

高校から大学の間は筒井康隆さんにはまっておりました、既刊書は熟読いたしました。

その後、漫画の大人買いに向かい、現在では雑誌を読む程度なので、忘れておりました。

筒井康隆さんの熟読のせいか、右目の視力が0.1ございません。左目は1.0ちかくあるので、現在では本を読むのがつらいです。なんとかこれを解消できれば、また本も読むのではないかと考えています。対象法をご教示いただける方、大募集中でございます。

ご清聴、ありがとうございます。

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
4/26(金) 第 1633 回	クラブリーダーシップ ラーニングセミナー	ツインメッセ
5/15(金) 第 1634 回	会員卓話	理事会
5/23(土) 第 1635 回	親睦旅行	福岡
5/28(木) 第 1636 回	35 周年記念	小杉苑

■ 今週の一言

山田壽久君



皆さん、こんにちは。今週の一言、「好きな言葉」をテーマに、一言ご挨拶させていただきます。

ちょうど、私が26代の会長を仰せつかったのが、2016年

7月1日から2017年6月末の任期でありました。ちょうど10年前になります。

当時、私は会長挨拶で毎回、私が大好きでありました田中角栄の言葉をご紹介させていただきました。今回も、当時60程の角栄の言葉をご紹介させていただきましたが、当時まだ紹介できなかった言葉を今日紹介したいと思います。

彼は、大正7年(1918年)5月4日生まれ、平成5年(1993年)12月16日に人生を全う致しました。75歳の人生でした。彼が、65歳(昭和58年1983年)皆さんご存じの通り、ロッキード事件の公判中に総選挙がおこなわれました。その時に、彼は死生観(死ぬ生きる)を語った言葉があります。それは、「眠ることは死ぬことだ、人間は毎日死に生きている。その心境がわかってから、すべてが怖くなった。」と話しておりました。

しかし、その2年後に脳梗塞で倒れ、政界を去ることになりました。幸せに生きるという人間の原点を追い続けた角栄でしたが、自分の死について語ったことは、少なかったです。眠りを死に例えたこの言葉は、いつまでも国民のために働き、政治活動を続けるという生涯政治家宣言だったと思います。

私も昨年、76歳になり角栄の生涯年齢を超えた年となりました。今まで、死とか生とか、あまり考えたことはありませんでしたが、やはりこの年になりますと残りの人生を考えてしまうような年になりました。

しかし、角栄のように、毎日が生き死にであれば、生きることの有難さを感じ、自分のできることを努力して参りたいと強く感じております。これからも、自分の感じるままに生きたいと思いますので、お付き合いをよろしくお願い致します。

以上、今週の一言とさせていただきます。ありがとうございました。



(担当/秋谷貴也君)